

挨 捭

大正十五年一月十七日、日本労働組合總聯合を結成せしめてより、年一年、全國的の基礎を固め來たつて、今や總聯合の基礎は牢靠と抜くべからざるものとなつた。思へば過去の鬪争は、痛ましきまでに深刻なら苦鬪史であつた、しかし乍ら今にして回想せば莞爾として微笑せざるを得ない、如何なる敵に對しても正々堂々たる鬪争、それを通じて贏ち得たる我等の確信、我等は茲に本大會の壇上に立ちて我等の將來を想見する時、實に勇躍禁じ難きものがある、しかし乍ら過去の我等の鬪争、必ずしも完全なりとは言へぬ、故に本大會に於て充分に過去の批判をなすと共に、將來の運動方針を確立すべく懇摯なる審議と努力を希望するものである。

かくして日本労働組合總聯合の基礎となる行動は益々果敢に益々堅実に發達するであらう。

昭和四年三月二十四日 中央執行委員長 坂本孝三郎

一般情勢報告

昭和三年五月、東京に催されたる全國大會以後今日に至るまでの總聯合の行動報告は、以下各部の報告に於て之れを陳述するが、一般情勢を述ぶれば左の如くである、

一大正九年以來打續く不景氣は依然として去らず、彼の昭和二年春、襲來したる金融恐慌は、更に深刻なる影響を労働界に與へ、更に昭和三年の秋、御大典以後の人心は一層沈黙して行つた

これを日本銀行調査によれば、労働人頭の指數は漸落の趨勢を辿り、昭和元年を一。〇とすれば、昭和三年は九一を示してゐる、その原因は事業縮少と工場閉鎖にあるは言ふまでもない

しかも現在社會の經濟的壓迫に耐へ兼ねて中間層は労働階級に轉落し、労働階級と